



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

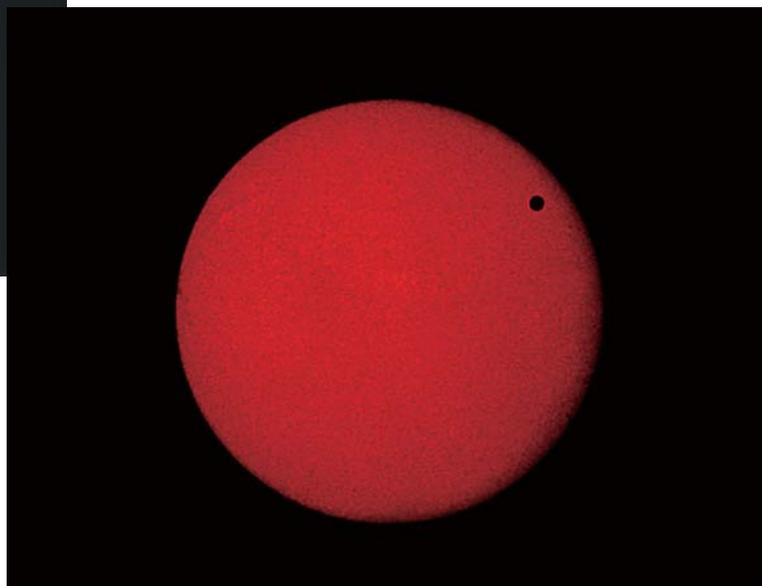
2011.12 月号



2004年6月8日 →
日本各地で見ることのできた
金星の太陽面通過
右上にある黒い丸い点が金星

← 1987年9月23日

沖縄で見られた金環日食の連続写真



プラネタリウム新番組

2012年の天文現象

投影期間：2011年12月3日（土）～2012年1月29日（日）までの土・日曜日

第1回：午前11時～ / 第2回：午後2時～（各回50分）

観覧料：200円（18歳未満・65歳以上無料）

2012年は天文現象の当たり年！ 5月21日（月）には、1987年以来25年ぶりに日本で金環日食を見ることができます。月が太陽を隠し、太陽がリング状に見える金環日食。皆既日食ほどの派手さはありませんが、宇宙の不思議さを十二分に感じさせてくれるイベントです。しかも平塚は、今回の金環日食を観察する条件が非常にいい場所の一つでもあります。

6月6日（水）には、地球のすぐ内側を回る惑星・金星が太陽の前を通過する様子を見ることができる金星の太陽面通過という現象が見られます。太陽の表面を丸い影となって金星が通り過ぎていく様子は、宇宙の広さ、太陽の大きさを実感することができます。金星の太陽面通過は2004以来8年ぶり。しかも、これを逃すとあと100年以上見ることができません。貴重な天文現象なのです。

ほかにも2012年は、ペルセウス座流星群やふたご座流星群といった有名な流星群も見やすい年です。もちろん、年明けには金星や木星、春には火星、初夏には土星と、惑星たちが見えることも忘れてはいけません。

今回の番組では、プラネタリウムのシミュレーション機能を活かして、これらの天文現象を再現、どのように見えるのか、どのように見たらよいのかをご紹介します。

冬期特別展「星々のみちびき～大雄山参道二十八宿灯」より

江戸時代の星図

冬期特別展では、大雄山最乗寺に登る参道に並ぶ昔の星座名が入った珍しい丁石を紹介していますが、関連資料として、貴重な江戸時代の星図を借用して展示しています。星宿等に用いられた星宿が、公式の天文学でも用いられていたことがわかります。良い機会ですので、今回はこの星図について解説します。

今回の特別展で借用した星図は、「天文成象」と「中星候辰表」の2点です。「天文成象」は千葉市立郷土博物館から、「中星候辰表」は、千葉県立中央図書館からお借りしました。

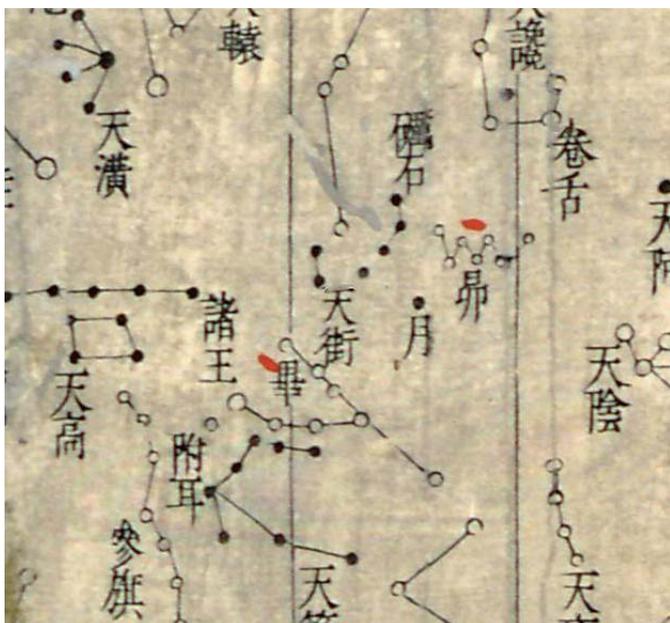
1. 天文成象

「天文成象」は、江戸時代中頃の天文学者渋川春海はるみが製作した精密な星図です。昨年ヒットした小説「天地明察」の主人公としてご存知の方も多いでしょう。

日本では、平安時代に唐から輸入した宣明暦が江戸時代まで正式な暦として用いられてきました。しかしその時代の暦は一年の日数に生じる端数も現代ほど正確ではなく、長年使い続ければ実際の天文とのずれが積み重なってきます。春海はこれを改め、貞享暦という初めての国産暦の制定を成し遂げ、江戸幕府初代の天文方に任命されます。さらに元禄十二年(1699)、中国由来の伝統的な星座に加え、観測に基づき独自の星座まで設定し製作したのが展示の「天文成象」です。

図は、赤道を中心に、縦の線で二十八宿の範囲を示しつつ、国内で観測可能な星と星座を図にしています。星は一部を除き同じ大きさの丸で描かれています。

■ギャラリートーク(展示解説)：12月4日(日) 午後3時～4時 参加自由



天文成象(部分)：昴、畢宿の部分。星は○印で描かれています。縦の線は星宿の境界です。

なおこの星図の序文について詳細を知りたい方は、2000年の当館特別展図録「星の地図・星の住所」に読み下しと訳を掲載していますのでご利用ください。

2. 中星候辰表

中星候辰表は、「天文成象」よりもずっと後の文政九年(1826)、福山藩土石坂常堅つねかたによる星図です。中星候辰表とは星図に付された、季節ごとの南中星を示した詳細な表の名で、星図を「方円星図」と呼ぶ場合があります。

この図には、観測値では地平線下に沈まない北の星を描く「上規」に加え、日本では地平線より昇らない、つまり観測不能な「下規」の星まで掲載されています。西洋の天文知識を導入した清国の「欽定儀象考成」きんていぎしょうこうせい所載の星表データを用いて描いているものです。おなじみの星座としては、みなみじゅうじ座を「十字架」の名で見いだせるでしょう。

また星の描き方に等級差を用い、星宿の線に代って緯度経度の目盛線を設けている点も「天文成象」と異なり、西洋天文学の影響が見られます。



中星候辰表(部分)：左図と同じ星の部分です。等級により星を描き分けています。縦線は赤経の目盛線です。

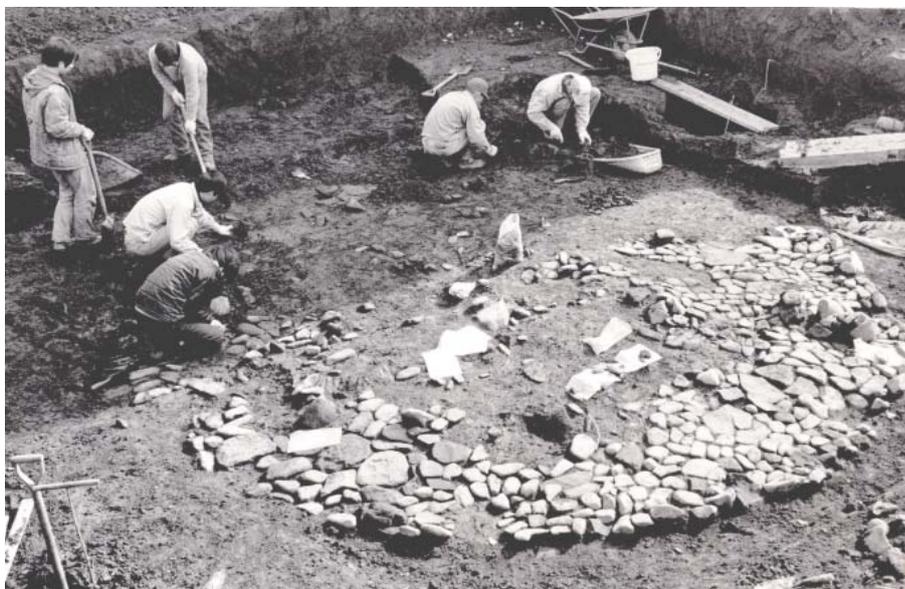
縄文の至宝

上ノ入遺跡

開催期間：12月1日(土)～12月27日(火)

平塚市岡崎字上ノ入(かみのいり)に所在する「上ノ入遺跡」は、伊勢原台地の南端、丸島から東へ半島状に延びる台地のほぼ中央部に位置する遺跡です。

岡崎小学校の校舎建築に伴って、昭和49年から51年までの間に4回にわたって発掘調査が実施されました。調査では縄文時代から中世かけての様々な資料が発見され、市内でも極めて重要な遺跡であることがわかったのです。なかでも縄文時代の資料は、竪穴住居址10軒、敷石住



上ノ入遺跡の発掘調査風景

居址2軒、配石遺構群4基の他、土坑、ピット群が多数発見され、遺物は中期を主体に後期、晩期の土器、石器、炭化物、焼けた獣骨などが出土しています。

今回の展示では、普段収蔵庫に保管している上ノ入遺跡出土の縄文土器資料のうち、接合・復元されているものを一堂にご紹介します。縄文時代中期から後期にかけての土器の雰囲気の違いはもとより、バリエーションに富んだ器形と文様は、現代の私たちに、心豊かな縄文時代人の感性を伝えてくれることでしょう。

Evening Museum Week

12月6日(火)～12月11日(日)

冬期特別展開催中の一週間、開館時間を午後7時まで延長してプラネタリウム特別投影や、学芸員による“よもやま話”を行います。

★プラネタリウム特別投影★

日時：12月6日(火)～9日(金) 各日午後5時～

観覧料：200円(18歳未満・65歳以上無料)

※観覧券の発売は当日午前9時より

投影番組：「HAYABUSA BACK TO THE EARTH」

帰還バージョンディレクターズカット版
(ロングバージョン)

●学芸員よもやま話 テーマ：“みちびき”

12月6日(火) 「地震がもたらす活断層」

12月7日(水) 「星のふるまいを律する者」

12月8日(木) 「近世ひらつかの旅人」

12月9日(金) 「海岸の環境を生きものから考える」

12月10日(土) 「古代相模の旅人」

12月11日(日) 「平塚の道標」

各日午後6時～午後7時 会場：講堂 参加無料

12月

1	木	展示解説ボランティアの会	講堂	冬期特別展「星々のみちびき〜大雄山参道二十八宿灯〜」 平成24年1月15日〜27日まで
2	金	古文書講読会	講堂	
3	土	お囃子研究会	講堂	
3	土	◎星を見る会「金星を見つけよう」	科学教室・屋上	
4	日	水辺の楽校生きもの調べの会	科学教室	
4	日	平塚の古代を学ぶ会	講堂	
5	月	休館日		
6	火	◎イブニングミュージアムウィーク「地震がもたらす活断層」	講堂	
6	火	平塚地質調査会	工作室	
7	水	◎イブニングミュージアムウィーク「星のふるまいを律する者」	講堂	
8	木	◎イブニングミュージアムウィーク「近世ひらつかの旅人」	講堂	
8	木	石仏を調べる会	特別研究室	
9	金	◎イブニングミュージアムウィーク「海岸の環境を生きものから考える」	講堂	
9	金	古文書講読会	講堂	
10	土	◎イブニングミュージアムウィーク「古代相模の旅人」	講堂	
10	土	古代生活実験室	科学教室	
10	土	天体観察会「学習会と観察会」	科学教室・屋上	
11	日	◎イブニングミュージアムウィーク「平塚の道標」	講堂	
11	日	相模川の生い立ちを探る会	科学教室	
11	日	◎体験学習「お飾りを作ろう」	講堂	
11	日	星まつりを調べる会「見学会」	野外	
12	月	休館日		
15	木	展示解説ボランティアの会	特別研究室	
16	金	古文書講読会	講堂	
17	土	地域史研究ゼミ	特別研究室	
17	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特別研究室	
17	土	◎特別展記念講演会「道了尊信仰と平塚の道了講」	講堂	
18	日	◎ろばたばなし	相模の家	
19	月	休館日		
21	水	裏打ちの会	科学教室	
21	水	民俗探訪会	特別研究室	
22	木	石仏を調べる会	特別研究室	
23	金	祝日開館		
24	土	☆プラネタリウム「聖なる夜の『銀河鉄道の夜』鑑賞と星宿灯の星空」	プラネタリウム	
26	月	休館日		
29	木	休館日		
30	金	休館日		
31	土	休館日		

プラネタリウム「THE EARTH」上映会12月6日

1月

1	日	休館日	
2	月	休館日	
3	火	休館日	
5	木	展示解説ボランティアの会	特別研究室
7	土	お囃子研究会	講堂
8	日	平塚の古代を学ぶ会	講堂
8	日	星まつりを調べる会「文化祭準備」	科学教室
9	月	祝日開館	
10	火	休館日	
12	木	石仏を調べる会	特別研究室
13	金	古文書講読会	講堂
14	土	古代生活実験室	科学教室
15	日	◎相模川の生い立ちを探る会	東京
15	日	◎ろばたばなし	相模の家
16	月	休館日	
18	水	裏打ちの会	科学教室
18	水	民俗探訪会	特別研究室
19	木	展示解説ボランティアの会	特別研究室
20	金	古文書講読会	講堂
21	土	地域史研究ゼミ	特別研究室
21	土	平塚の空襲と戦災を記録する会	特別研究室
21	土	天体観察会「学習会とスターウォッチング」	科学教室 屋上
22	日	水辺の楽校生きもの調べの会	科学教室
22	日	天体観測会「文化祭準備とスターウォッチング」	科学教室 屋上
23	月	休館日	
26	木	石仏を調べる会	特別研究室
26	木	古文書講読会	講堂
27	金	◎星を見る会「木星・金星・冬の星座を見よう」	科学教室 屋上
28	土	◎星まつりを調べる会「文化祭準備」	科学教室
28	土	◎自然教室「葉脈標本を作ろう」	科学教室
30	月	休館日	

冬期特別展「星々のみちびき」1月15日まで
 寄贈品コーナー「くらしのなかの火」1月4日〜29日
 プラネタリウム「2012年の天文現象」1月29日まで

☆:展示・プラネタリウム ○:申込制行事 ◎:参加自由 無印:年間会員制

◎ギャラリートーク
 日時:12月4日(日) 午後3時〜4時
 会場:博物館特別展示室
 参加:自由

<寄贈品コーナー>
 ☆寄贈品コーナー「縄文の至宝 上ノ入遺跡」
 ※詳細は本紙3頁参照。

<プラネタリウム>
 ☆プラネタリウム番組「2012年の天文現象」
 ※詳細は本紙1頁参照。

<自由参加の行事>
 ◎イブニングミュージアムウィーク
 ※詳細は本紙3頁参照。
 ◎星を見る会「金星を見つけよう」
 日時:12月3日(土) 午後5時〜午後6時30分
 場所:博物館屋上(博物館1階科学教室に集合)
 参加:自由
 ◎ろばたばなし
 内容:民家のいろりばたで昔話を語ります。
 日時:12月18日(日) (1)午後1時20分、(2)午後3時
 場所:展示室1階「相模の家」
 参加:自由

※12月の休館日:5日、12日、19日、26日、29〜31日

展示とプラネタリウム

<特別展と関連行事>

☆冬期特別展「星々のみちびき〜大雄山参道二十八宿灯〜」

会期:1月15日(日)まで

会場:特別展示室

◎記念講演会「道了尊信仰と平塚の道了講」

講師:西海賢二氏(東京家政学院大学教授)

日時:12月17日(土) 午後1時〜3時

会場:博物館講堂

参加:自由

☆プラネタリウム「聖なる夜の『銀河鉄道の夜』鑑賞と星宿灯の星空」

内容:星宿灯は信仰へ誘う星座の道。仏教への信仰篤かった宮沢賢治作品と合わせて鑑賞してみます。

投影日:12月24日(土) 午後3時30分〜4時50分

観覧料:200円(18歳未満・65歳以上無料。当日午前9時より発売)

あなたと博物館 39巻9号 通算420号 発行 平塚市博物館 2000
 〒254-0041 平塚市浅間町12-41 Tel:0463-33-5111 Fax:0463-31-3949
 E-Mail: info07@hirahaku.jp ホームページ http://www.hirahaku.jp/